土地探しから電気工事まで

自社一貫施工体制を拡充

たかくら

たかくら（兵庫県豊岡市、高倉卓男社長）は、2×4製材を使った鶏舎や畜舎、農業施設、工場などの建設で事業を拡大している。3月に宮城県仙台市の電気工事会社を取得。4月には不動産業の認可も取得し、土地探しから用地の造成、設計、施工、電気工事まで一貫して手掛けられるようになった。東北支店（宮城県石巻市）との2拠点体制で、現場は東北が中心だが、畜産が盛んな北海道、東北、九州、四国を市場として需要を開拓し、各地の国産材の活用にも力を入れていく。

今年、宮城県内に建設した大型農業施設は、鉄骨造の大型バイオマス（鶏糞）ボイラー棟のほか、236坪の木造倉庫と21坪の木造テント倉庫2棟、ビニールハウス2棟ほかを建設した。



建設途中のスパン12㍍の木造倉庫

木造施設は瀬上製材所（北海道中川郡）と組み、30×152㍉を基本とする特殊なサイズのカラ松製材を使用した。製材歩留まりを上げながら木材の使用材積を減らせる設計となっているのが特徴で、従来の2×4製材を使用した場合に比べて使用材積を10％前後減らした。

製材はプレカットせずに現場で加工し、1500㍉ピッチで配置した合板ガゼットプレートトラスで屋根を架構した。木造倉庫はスパン12㍍。製材は最長3・65㍍で設計したため、基礎の高さを2・5㍍に上げて建物の高さを確保した。北海道、東北ではカラ松を中心に使用していくが、九州や四国では地域の杉を採用する計画。

現在、新規事業として宮城県大崎市でおが粉工場の建設を計画している。用地の造成に伴って伐採する支障木の受け皿として家畜敷料向けのおが粉を生産する考えで、来年度中の竣工を予定している。おが粉は家畜敷料としての引き合いが多く、提案力の向上につながると見ている。

課題は、土地探しや施工管理など業務の効率化で、AIを使ったシステム化で克服しようとしている。土地探しでは、公的な土地台帳から条件に合った用地を自動で選定するシステム、施工管理では、作成した図面情報から資材の積算、発注、工程管理までを自動化するシステムの開発を進めている。

期待している。

2×4工法の普及では入門・基礎セミナーを毎年開催しており、今年も10月27日の福岡会場（福岡市）を皮切りに11月19日の前橋会場（群馬県前橋市）、2月上旬予定の三田会場（兵庫県三田市）の全国3都市で開催する。2×4工法の概要から仕様書・告示の解説、設計・施工のポイントを中心にコストダウンと安全性を両立させる構造計画、最新の非住宅への活用事例などについて説明する。前橋会場と三田会場ではプレカットやパネル製作の工場見学も行う。